



共同機構研修のビデオ・DVDの活用について

今年度も共同機構研修会に各団体より多数ご参加いただきありがとうございました。こどもみらい館では、共同機構研修のビデオ・DVDの貸し出しをしております。

今年度も様々な分野の先生方にご講演いただきました。

鯨岡峻先生、橋本真紀先生、佐々木晃先生、金子恵美先生、大倉得史先生、梶原裕二先生、田中一史先生についてはビデオ・DVDとも貸出ができます。

河崎道夫先生、西川由紀子先生についてはしばらくお待ちください。準備が出来上がり次第お知らせしたいと思います。

各園所で職場研修や学習会の機会を通してみなさんの学びの時間に是非とも活用していただきたいと思います。

<貸出について>

1. 電話で事前に予約してください
 2. 貸出しの当日に「共同機構研修会・DVD利用申込書」をこどもみらい館事業課に提出してください。
 3. 貸出し本数は1回につき2本までです。
 4. 貸出し期間は貸出日から2週間以内です。
- * 詳細については申し込みの際にお伝えいたします

第14回 「みらいっこまつり」開催報告

平成25年12月20日(金)・21日(土)

京都市保育園連盟「エアマットであそぼう」、京都市私立幼稚園協会「みらいっこわくわくコンサート」、京都市保育士会「わくわくステージ・みんなあつまれ」、京都市営保育所長会「赤ちゃんふれあいコーナー」、京都市立幼稚園長会「みんななかよしお楽しみ会」NPO法人京都子育てネットワーク「子育てコンシェルジュ」など、共同機構の各団体の皆様にも楽しいイベントを企画・運営していただき、盛況に終わることができました。本当にありがとうございました。

エアマットであそぼう



京都市保育園連盟

みらいっこわくわくコンサート



京都市私立幼稚園協会

わくわくステージ・みんなあつまれ



京都市保育士会

赤ちゃんふれあいコーナー



京都市営保育所長会

みんななかよしお楽しみ会



京都市立幼稚園長会

子育てコンシェルジュ



NPO法人子育てネットワーク

生き物と関わることで子どもの心に育つものとは

講師 梶原 裕二 京都教育大学教授

自然や生き物は、ものの存在や周囲の変化に気付くきっかけを与えてくれます。その時に、観察力を育成したり、視覚や嗅覚等を通してものを認知したりすることが、自然体験・直接体験となります。園(所)でも、保育室や園庭、テラス等に、動物を飼育したり植物を植えたりして、子どもたちが自然に自由に触れる環境を作りましょう。飼育する際には、まずは子どもが怖がらない小さなサイズで、手間がかからず、先生も子どもも飼って楽しいもののがいいと思います。草むらや食草、虫が食べる植物を植えるのもお勧めです。園(所)から特別な所へ行けなくても、家庭等で出かけた折等に、子どもたちが興味をもって生き物に関われる工夫をすることができると思います。

生き物の美しさやいい香り、形状のおもしろさ等をいっぱい感じ、その要素を溜め込んでほしいと思います。また、子どもの見方の大らかさを大切にしながらも、一方で観察力を育むことも大切にしてほしいと思います。見て気が付いていくことで、気持ちがわかるのではないのでしょうか。人はものを見るときには、自分の心を鏡のように反映させます。ものを言わない生き物に対して、相手の気持ちを推し量りながら、自分の気持ちを反映させることは、他者への共感を学ぶ大切な機会になります。生き物を大切にする経験を通して、生き物も大切、人も大切、自分も大切という気持ちが育っていくことを願います。

小さい頃の自然や生き物との関わりは子どもたちにとって将来の楽しみとなります。そして、大人にとっても自然や生き物はとても楽しいものだと思うのです。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。 [貸出要項へ](#)
講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。

気になる子どもをどうみていくか

講師 田中 一史 京都市児童福祉センター 児童精神科医

気になる子どもをみていく場合、「気になるとはどういうことか」「困っているのは誰か」と考えることが重要です。「保護者の困り」と「支援者の気付き」を「子どもがどう困っているか」という視点で共有し、「気になる行動がなぜ起こっているのか」という背景に発達特性の違いがあることを捉えた上で、支援方法の知識を持っておくことが大切です。

発達障害は、主に自閉症スペクトラム障害(ASD)、注意欠如・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)の3つがあり、なかでも自閉症スペクトラム障害について「対人関係」「コミュニケーション」「想像力」の質的異常の三つ組の特徴について、発達段階や特性の強さによる違いをイメージできるようにすることが重要です。また三つ組以外にも感覚特異性や運動面・行動面の問題も大きく、これらの困りを理解して支援していくことが大事です。

診断には子どもの様子と生育歴をいろんな場面から集め、その子の特性がどのようなもので、それが行動にどのようにあらわれているのかを説明できるところまでを目指しています。子どもの行動を特性から理解し、具体的な対応につなげるため、保護者の捉え方にも配慮しつつ子どもの「困り」を共有し、協働していくために診断をする意義があります。

支援者は支援のための知識や情報を持ち、保護者の特性に合わせた対応を心がけ、保護者が置かれてきた心理社会的状況を謙虚に理解しようとする姿勢で接する必要があります。そのことで「サポートしてもらえた」という経験を保護者に与えることができ、支援者への信頼関係を育てることが可能となります。子育て、子どもの支援に前向きになってもらうため、このような点を意識していただければ専門家としてはありがたいです。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。 [貸出要項へ](#)
講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。

子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる
取組を進めます。
(「子どもを共に育む京都市民憲章」より)



発行日 平成26年1月20日
発行者 京都市子育て支援総合センター子どもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1
Tel (075) 254-5001 Fax (075) 212-9909